

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業を充実する。	中間評価	○学校評価や学校公開アンケートの活用をはじめ、結果を分析して、主体的・対話的な授業の充実に向けて授業改善に努めている。	最終評価
		○一人1台タブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学び・対話的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。		○校内でタブレット端末の活用方法の研修を行うなど、全教職員がタブレット端末を積極的に活用できるようにしている。効果的に活用していくために、情報交流を今後も行っていく必要がある。	
環境作り					

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<p>学音読をする機会を多く設けたため、簡単な文章を正しく読むことができるようになった。</p> <p>学字形に気を付け、丁寧に書こうとしている児童が多くいる。一方、文章を書く際に、句読点、撥音、拗音などの書き方が違っている児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>句読点、撥音、拗音を正しく使うことができていない児童が多い。視写や作文を通して、文章を書く機会を多く設ける必要がある。</li> <li>新出漢字、及び片仮名の書き順や字形を正しく覚えていない児童が半数近くいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写する時間を設けたり、週に一度、日記を書く時間を設けたりすることで、文章を書く力を伸ばしていく。</li> <li>反復練習を行う他、小テストを單元ごとに実施することで、新出漢字や片仮名の確実な定着を図るようにする。</li> </ul>		
	算数	<p>学繰り上がりや繰り下がりのない一桁の計算はほぼ全員の児童ができる。繰り上がりや繰り下がりの計算も10のまとまりを作って計算する方法を用いて8割近くの児童が正しく計算できるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題から題意を正しく理解し、立式することが困難である児童が3割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題に多く取り組ませ、ポイントとなる「あわせていくつ」「残りはいくつ」といった言葉やキーワードに着目しながら立式をする習慣を身に付けさせる。また、加法や減法の場面を具体物やICT機器を用いて視覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>		
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学板書や教科書の試写をする際に、字形に気を付け、丁寧に取り組む児童が多い。しかし、素早さばかりに目が向き、丁寧に書くことができない児童もいる。</p> <p>学文を書くことについては意欲的な児童が多いが、習った字を使わずに文を書いたり、同じ読み方の別な漢字を使ったりする様子が見られる。</p> <p>学文章を読み、叙述に即して考えたり根拠となる部分を探したりすることについては、語彙力の差が大きく、言葉の意味理解が十分にできず、内容を正しく読み取ることが困難な児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写の基本である「正しく」「丁寧に」「速く」の3点を指導し、個人の状況に合わせて3つの中で自分に足りないものは何かを考えさせることが課題である。</li> <li>新出漢字を習う際、読み方や書き方のみを注意している児童がいる。そのため、漢字の成り立ちや意味について触れたり、使用場面を考えさせたりする指導が必要である。</li> <li>語彙力の差が大きく、言葉の意味を理解できない児童がいる。個人差を配慮した上でどのような指導をしていくかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書や教科書の試写に取り組む時間を確保する。そのうえで、3点のうち自己の課題が何かを考えるようにさせ、重点項目を克服できるように取り組ませる。</li> <li>新出漢字を学習する際、成り立ちや意味を指導するとともに、どのような使用場面があるのかを発表させ、合っているかを考える時間を設ける。</li> <li>タブレット端末の使い方に慣れ、家庭でもドリル学習に取り組めるようにして、理解の定着を図る。</li> <li>文章の読み取りの場面だけでなく、普段使っている言葉の意味に着目させ、どのような意味かを説明し合ったり教えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について考えさせたことにより、それぞれが自らの課題を克服していこうと努力する姿が見られている。成長を認め、励ましながら意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>新出漢字の指導の際、成り立ちや意味をおさえたことにより、使用場面を意識して正しく使うことができる児童が増えた。</li> <li>タブレット端末のドリル学習に繰り返し取り組ませたことにより、漢字を正しく書ける児童が増えた。</li> <li>一つの言葉について、他の使用場面を考えさせたり類義語で表現させたりしたことで、言葉の意味への理解が深まった。今後も言葉の理解を深める指導を継続していく。</li> </ul>	
	算数	<p>学数や長さ、広さ、かさについての大小関係は、概ね理解できている。</p> <p>学繰り上がり、繰り下がりのある計算は、概ね理解できている。しかし、指を使って考える児童もおり、正確さや解く速さについては個人差が大きい。</p> <p>学文章問題を読んで具体的な場面を想像し、量の増減を基に立式をすることについては、理解できている児童が多い。ただし、「どちらがどれだけ」の問いに対しては、文章の読み取りが十分でなく、正答を導き出すことができない児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習時には理解している様子が見られるが、以前に習った単元の学習内容を忘れてしまっていることがある。定着するように継続的な指導を行うことが課題である。</li> <li>繰り上がり・繰り下がりの計算については、指を使って教えてしまうことで解く速さが遅くなってしまふ。さらに、数え間違いにより正確さが低下しているのので、正しく計算できる力を身に付ける指導が必要である。</li> <li>聞かれていることは何かを正しく理解できるように、文章問題のあ内容を丁寧に指導していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数単元前の学習内容を宿題として出したり、普段の生活の場面で既習事項を生かした発問をしたりする。</li> <li>タブレット端末の使い方に慣れ、家庭でもドリル学習に取り組めるようにして、理解の定着を図る。</li> <li>算数の授業時間内に足し算や引き算の計算に取り組む時間を設け、計算に慣れるようにする。正解数を増やしたりかかる時間を短くしたりできるように繰り返し計算問題に取り組ませる。</li> <li>文章問題を解く際には、分かっていることと聞かれていることを確認するとともに、数量の多寡や増減を考えさせることで、正しく意味を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項について宿題や日常生活で触れることで、学びの定着を図ることができた。課題のある児童に対しては、補充の学習を行い、基礎学力の定着を図っていく。</li> <li>タブレット端末を活用した宿題を出し、繰り返し計算問題に取り組ませることで、正しく計算できる児童が増えた。</li> <li>初めは時間がかかっていたが、だんだんと計算に慣れてきて、単元の振り返りテストでは解ける数や素早さ、正確さの向上が見られた。今後は足し算、引き算の他、掛け算にも取り組ませていく。</li> <li>文章問題の内容を読み、重要な部分に線を引かせたことで、題意を理解して、正しく立式できる児童が増えている。</li> </ul>	

3	国語	<p>調「話すこと・聞くこと」において、区及び全国の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>調「書くこと」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>学順序だててかいたり話したりすることができるようになってきたが、自分の思いや考えを表現することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話を聞きとる」ことを苦手とする児童が多い。話の中心や大事なキーワードを選んだり聞き取ったりすることができる指導が必要である。</li> <li>文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。指定された長さで文章を書けるようにすることが課題である。</li> <li>気持ちを表すキーワードを基にして、そこに必ず理由を付け加えられるように引き続き指導をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の中心や大事なキーワードを捉えるために、文頭表現や末尾表現などに気を付けさせる。また大事なことを落とさないように聞くために、よい話し方やよい聞き方についての話型や聴型を示し、指導する。</li> <li>文章を書くことへの苦手意識を減らすために、その日あったことを振り返る文章を毎日書かせる宿題を設ける。</li> <li>文章を書く際に、書き方の提携を提示し、正しい書き方を習慣付けさせる指導を行う。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わりやすくするための話型について指導を行ったことで、自信をもって大きな声で話す児童が増えた。今後、友達の発表についてどう思ったのかを自分の言葉で伝えられるように指導していく。</li> <li>自分の考えを表現する際の定型を随時提示することで、文章を書くことへの苦手意識の軽減につながり、順序よく接続語を意識して書く力が定着してきている。</li> <li>今後もタブレット端末を活用した家庭学習で繰り返し漢字の書き取りや読み取りに取り組みさせ、知識の定着を図っていく。</li> </ul>
	算数	<p>調「1000までの数」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>調「長さ・かさ」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>学計算問題や九九の習熟には個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10や100を一つのまとまりとして見て、数を相対的に見られるようにする指導が必要である。</li> <li>任意単位を用いて測定することはできているが、かさの差を求めるときに問題文の内容を正確に読み取れるように指導をする必要がある。</li> <li>加法、減法の筆算の仕方や九九を忘れないよう、ページタイムや家庭学習で繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項が十分に身に付いていないため、毎日の家庭学習で復習に取り組む。</li> <li>文章問題を読むときに、分かっていることと求めることを区別できるよう、下線を引く指導をすることで、正しく立式できるようにする。</li> <li>加法、減法の筆算の仕方や九九などは、始業時に行うチャレンジ問題を活用し、知識の定着を図る。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の宿題作成時には既習事項の復習も取り入れ、理解の定着を図っていく。</li> <li>文章問題では、分かっていることや求めることに線を引くように指導したことで、単元の振り返りのテストでは児童が題意を正しく読み取れるようになり、ケアレスミスの減少にもつながった。</li> <li>毎時間、チャレンジ問題を行うことで素早く正確に計算する力が身に付いてきている。</li> <li>デジタル教科書等ICTを効果的に活用して視覚的に理解させるようにしている。今後はタブレット端末のドリル学習とプリント学習を併用することで、筆算の書き方やコンパスの正しい使い方の定着を図る指導を継続していく。</li> </ul>
4	国語	<p>調全校正答率を上回っているが、第3学年の配当漢字を書くことが身に付いていない。</p> <p>調「言葉の学習」では、漢字の部首について目標値を上回っているが、国語辞典の使い方の理解が十分ではない。</p> <p>調2段階構成の作文や中心を明確にして文章を書くことについては目標値を上回っているが、指定された長さで文章を書くことに課題がある。</p> <p>学第2学年の漢字については、概ね定着している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3学年配当の漢字について、正しく読むことや書くことに課題がある。また、文章に取り入れて書けるような指導が必要である。</li> <li>五十音の順番について理解していない児童がいるため、国語辞典を速く引けるようにする指導が必要である。</li> <li>「書くこと」について、苦手意識が高い。3～4文程度の長さでしか書くことができないので、文章を書くことに慣れるような指導が必要である。</li> <li>繰り返し指導しないと既習の漢字を忘れてしまうので、自分で学習できるような手立てが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読むことについては、授業中や家庭学習に音読を取り入れるなどし、言葉に慣れ親しませるようにしていく。また、文章を書く漢字テストを定期的に行い、漢字の意味と使い方を理解できるようにする。</li> <li>国語だけでなく、総合的な学習の時間などの調べ学習でも、小久保事典を引く機会を多く取り入れ、定着を図る。</li> <li>「書くこと」については、短い文章で自分の考えや感想を書く活動を設定し、苦手意識を克服させる。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ドリルとタブレット端末を併用し、読み書きの練習に繰り返し取り組みさせたことで、正しく漢字を書く力が定着してきた。</li> <li>様々な場面で国語辞典を活用させたことで児童がすすんで分からない語句を調べる習慣が身に付いてきた。</li> <li>説明文から筆者が伝えたいキーワードを探し、各段落の内容把握をさせてから、200字程度の要約をする指導を行い、文章を書く力を身に付けさせていく。</li> <li>タブレット端末を活用したドリル学習に加え、オクリンクやムーブノートを活用して学習のまとめを行うことで指導を深められている。今後も指導を継続していく。</li> </ul>
	算数	<p>調「わり算」の2桁÷1桁＝1桁（余りあり）の計算については、目標値を下回っている。また、余りの処理に気を付けて答えを求めることについても目標値を下回っている。</p> <p>調「10000より大きい数」については目標値を上回っているが、数の相対的な大きさの理解については目標値を下回っている。</p> <p>学計算について苦手意識をもっている児童が、計算に意欲的に取り組むようになった</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掛け算の習得に課題がある児童が多いため、わり算についても計算を誤ったり、余りを書き忘れたりする児童が多い。正しく計算をできる力を身に付ける指導法が課題である。</li> <li>ある数を、単位に着目してそのいくつ文と見る方法や、数の仕組みについて理解できるような指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の時間のはじめに、四則計算の小テストに毎回取り組みさせることで、掛け算・わり算を習得させる。</li> <li>適切な単位を使えるようにさせるために、身近なものの重さに置き換えて覚えさせるなどの具体物を活用した指導を行う。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、小テストに取り組んでいることで、四則計算に慣れ、余りの処理に気を付けられるようになってきた。東京ベーシック・ドリルの分析を基に、個に応じて問題数を減らし、確実に問題を解けるよう支援したことで、意欲の向上につながっている。</li> <li>デジタル教科書を活用し、視覚的に問題を捉えやすくしたことで学習内容の理解につながり、単元の振り返りのテストでは適切な単位を使えるようになってきている。</li> <li>タブレット端末を中心に復習プリントを併用しながら、反復練習を重ねることで、学習の定着を図っていく。</li> </ul>

5	国語	<p>調「話し合いの内容を聞き取る」において、全国正答率を下回っている。</p> <p>調「漢字を読む」「漢字を書く」において、全校正答率を少し下回っている。</p> <p>学「始め・中・終わり」を意識して文章を書くことは概ね定着している。要約文を書くことは、まだ十分に身に付いていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く際に、要点をおさえて聞き取ることが苦手である。大事な言葉聞き取る力を身に付けられる指導法が求められる。</li> <li>繰り返し練習をすると定着してくるが、時間が経つと既習事項を忘れてしまう。繰り返し練習する時間の設定が必要である。</li> <li>説明文において、中心となる言葉や文を見付けられる力を身に付ける指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で短い内容を聞き取ってメモをする時間を継続的に設定する。</li> <li>家庭学習に音読を入れることで漢字を読むことに慣れさせる。また、授業の中で新出漢字や間違えやすい漢字について触れる機会を増やし、漢字の読み書きの力を定着させる。</li> <li>説明文において、中心となる言葉や文を見付ける活動を設定し、その根拠まで考えを交流させることで見付ける力を身に付けていく。</li> <li>家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞くことを意識させる指導を継続したことで、学習面に加えて生活面でも話を聞く力が身に付いてきている。</li> <li>音読や漢字を書く家庭学習を継続的に行ったことで、単元の振り返りテストでは教科書の文章を読む力や漢字を書く力が身に付いてきている。</li> <li>説明文への苦手意識が強い児童が多い。児童が主体的に文章を読もうとする発問の仕方を考えていく。</li> <li>タブレット端末を積極的に活用したドリル学習に加え、プリント学習も併用することで、計算力の定着だけでなく、分度器やコンパスを正しく使う力の定着も図っていく。</li> </ul>
	算数	<p>調「億と兆・がい数の表し方」において、全国正答率を下回っている。</p> <p>調「小数」「垂直・平行と四角形」において、全国正答率を少し下回っている。</p> <p>学個人差が大きい。掛け算九九、わり算など習得が十分ではない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「〇の位までの概数」「上から〇桁の概数」という言葉の意味を理解させる必要がある。</li> <li>小数は、掛け算・わり算において、正しく小数点を付けられるようにする指導が求められる。</li> <li>苦手意識をもっている児童は、既習事項を繰り返し復習する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きい数を扱う時に、位を確認したり概数での表し方を確認したりする場を設ける。</li> <li>小数点の位置や単位など見直すときのポイントを示す。</li> <li>掛け算九九わり算など習得が十分ではない学習内容がある児童は個別に家庭学習に加えるなど丁寧に対応し、基礎学力を定着させる。</li> <li>家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きい数だけではなく、小数の位も定着に課題があるので、数を扱う際は位や大きさを意識させていく。</li> <li>問題やテストを解く前に見直すポイントを板書することで、東京ベーシック・ドリルでは単位を忘れないなどケアレスミスが減ってきている。</li> <li>タブレット端末で個別に課題を出すことができるので、一括に家庭学習に取り組みさせるのではなく、児童の理解度に応じて必要な課題を出すことで理解の定着を図っていく。</li> </ul>
6	国語	<p>調「文章を書くこと」において、目標値、全国の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>学目的や意図に応じて攻勢を考え、文章を書くことを苦手とする児童が多い、また、段落の意味やまとまりを意識して書くことが十分身に付いていない。</p> <p>学第5学年の漢字については、概ね定着している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>始め・中・終わりの構成を考えながら書くことや、読み手に伝わるよう効果を考えて書けるようにする指導が必要である。</li> <li>漢字がもつ意味を理解していないため、同音異義の漢字と間違える児童が多い。意味を正しく理解させていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語に限らず、各教科でも学習のまとめを書いたり、自分の考えを文章で表現したりする時間を設ける。</li> <li>文章を書く際は、短冊や構成メモを活用するとともに、工夫した表現や自分の気持ちを書けている部分に線を引くなどの価値付ける指導を行う。</li> <li>漢字のミニテストを継続して行い、新出漢字に加えて既習の漢字を書く機会を設ける。</li> <li>家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに、筆者の考えや物語に対する自分の考えを書くことで、自分と結び付けて文章を読んだり、考えたことを書いたりできるようになってきた。</li> <li>自分の考えを述べることができる児童が限定されている。意図指名を行ったり、ムーブノートを活用したりすることで、全員が自分の考えをもち、発信したり、交流したりできるようにしていく。</li> <li>タブレット端末を主に活用し、繰り返し漢字のドリル学習に取り組んだ。今後はプリント等も併用し、多様な問題に取り組めるようにして定着を図っていく。</li> </ul>
	算数	<p>調「分数と小数」において、区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>調「平均」において、区の平均正答率を下回っている。</p> <p>学小数の計算、分数の計算に課題が見られる。また、分数の計算では、通分と約分に課題があり、数の性質の理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数的活動を通して、数の見方や感覚、計算の意味の理解などを高める必要がある。</li> <li>小数のかけ算やわり算、分数の約分や通分などにおいて、計算の仕方が定着しておらず、正しく計算する力を身に付けさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題では数直線を活用するよさを指導し、正しく立式する力を高めていく。</li> <li>家庭学習に既習内容を取り入れ、復習の機会を設けることで、小数や分数の四則計算の定着を図る。</li> <li>家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読むことに抵抗がある児童が多いため、図や数直線で表しながら文章を読むことを習慣化させた。今後も指導を継続し、自信につなげていく。</li> <li>新しい単元に入る際に、学習内容に関連する既習事項に触れることで、問題解決の場面で活用できるようにする。</li> <li>タブレット端末を中心にプリントを併用することで、確実に学習内容を定着できるようにしていく。</li> </ul>
音楽	<p>学音楽が好き、もっともったのしみたいと考える児童が多い。</p> <p>学楽譜や器楽の奏法で苦手意識を感じる児童もいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな楽曲を楽しむために、楽器の基本的な奏法を身に付けることが課題である。</li> <li>個人でもグループでも臆せず学びを楽しめることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音や呼吸の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で友達と協働して声を合わせて歌ったり、リズムを合わせて手拍子を打ったり、いろいろな楽器で演奏したりする。</li> <li>楽曲の特徴やよさを味わって聴く学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声が少しずつ出てきているが、まだ地声や喉に力を入れた歌い方の児童が見受けられる。呼吸を深くすることで無理のない発声を自らで判断できるように指導していく。合奏ではタブレット端末を活用し、拍子によってリズムのよい音楽をつくれるように指導していく。</li> </ul>	
図工	<p>学豊かな発想をする児童が多いが、なかなかイメージが浮かばない児童がいる。</p> <p>学イメージをもつことはできるが、どのように表したらよいか分からない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の様々な体験を作品づくりに生かすことができるような指導が求められる。</li> <li>はさみやのこぎりなどの切る道具や絵の具やクレヨン等の描画の道具を、自分の思い通りに使えない児童がいる。様々な道具を使い慣れるような指導が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の幅を広げるために様々な作例を、ICTを活用して示し、自由な発想ができるようにする。</li> <li>既習の道具の使い方を授業の初めに使い方の確認をしたり思い出したりするための時間を設け、繰り返し取り組むことで操作がスムーズにできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作例を提示するだけではなくICTを活用し、作る過程を提示した。作っている過程から発想する児童もいた。</li> <li>初めて使う道具を使用するときは、少人数ずつ集めて動作を一つ一つ確認しながら教えた。自信をもって道具を使える児童が増えた。</li> </ul>	
特支					